



耳寄り情報百科

令和7年
3月号



中南地域県民局地域農林水産部 農業普及振興室
弘前市蔵主町4 電話：0172-33-4821
FAX：0172-34-4390

黒石分室
黒石市田中82-9 電話：0172-52-4335
FAX：0172-53-4114



HP https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/ch-nosui/w_top.html

令和6年度の振り返りと令和7年度に向けて

令和6年、春は近年の傾向どおり訪れが早く、多くの作物で栽培管理に神経を使ったことでしょう。特にりんごにおいては、受粉環境が悪く、満足のいく収量や品質とならなかった方も多かったと思います。夏は令和5年に比べれば、気温は低かったものの、それでもかつての本県の夏とは異なった夏となり、栽培管理に苦労したでしょう。そして、冬、平成24年～25年シーズン以来の豪雪に見舞われ、多くの方が被害を受けたと思われます。

気候変動により気温や降水量等が記録を塗り替えることが常態化していくと思われませんが、減収や品質低下といった被害を少しでも軽減するためには、基本的な技術や対策を駆使して対応していくとともに、皆で知恵を出し合い、工夫しながら新たな適応策を構築していく必要があると考えています。

本年は乙巳^{きのとみ}の年で、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年とされています。前回の乙巳^{きのとみ}の年は昭和40年で、その年の11月からいざなぎ景気が始まり、技術や科学分野の著しい進展とともに日本経済は大きく拡大し、世界第2位の経済大国となる始まりの年でした。本年が新たな時代への幕開けの年になるよう願っています。

普及事業においては、青森新時代「農林水産力」強化パッケージを基に施策を展開していきますが、現場に足を運び、生産者を始め、関係機関・団体の皆さんの声に耳を傾け、連携しながら課題解決に取り組んで参りますので、よろしくお願いいたします。

農業普及振興室長 福田 典明

交信攪乱剤「コンフューザーR」の設置をお願いします！

近年、ハマキムシ類への殺虫剤の効果低下や、高温により成育の早まったシンクイムシ類の被害が目立つなど、薬剤散布主体の防除体系だけでは、害虫防除が難しくなっています。

令和7年りんご病害虫防除暦にも基準薬剤として採用された交信攪乱剤「コンフューザーR」は、ハマキムシ類やシンクイムシ類などの害虫の発生密度を低い状態に維持するために、地域一丸となって積極的に取り組んでいきましょう！





令和6年度も、多くの方がこれまでの功績や優れた取組により、表彰を受けられましたので、ご紹介します。

第43回青森県農業経営協会賞

平川市広船でりんご5haを生産・販売する(株)釈迦のりんご園(代表取締役 くどうひてあき 工藤秀明氏)が、この度「第43回青森県農業経営協会賞」を受賞しました。

この賞は、積極的な経営改善に取り組む農業者等を表彰するもので、(一社)青森県農業経営研究協会が主催しています。

釈迦のりんご園は、完熟堆肥による土づくりと自家製の有機質資材の葉面散布などの独自技術を確立して、良食味・高品質なりんごの生産を実現し、首都圏の実需者等への直接販売に取り組むことで販売額を飛躍的に増大させたことなどが高く評価されました。



代表取締役 工藤氏

担当：経営担当

令和6年産「あおもりの旨い米グランプリ」

青森県のおいしいお米 No.1 を決める「あおもりの旨い米グランプリ」が今年度も開催されました。応募総数は昨年より25点多い167点で、成分分析や食味評価による厳正な審査により、くどうゆきのり 工藤千宜氏(弘前市)が、「青天の霹靂」の部で準グランプリを受賞しました。工藤氏は2年連続3回目の受賞となります。

工藤氏は、育苗器を使用して出芽を揃え、高温障害を回避するため露地プール育苗により健苗育成に努めるとともに、追肥の時期にケイ酸質資材を施用して良食味生産を行っています。



表彰式の様子：工藤氏(後列中央)

担当：水稻担当

第50回青森県花の共進会

令和6年7月27日、青森市アスパムにおいて第50回青森県花の共進会が開催されました。当地域からアルストロメリア5点、ひまわり1点、りんどう2点、合計8点が出品され、しながわみねひろ 品川峰弘氏(田舎館村)のひまわり「サンリッチフレッシュレモン」と山下達雄氏(西目屋村)のりんどう「しなの早生」が金賞を受賞しました。

当地域では受賞した2品目のほか、アルストロメリア、トルコギキョウ、キクなど、多くの品目が栽培されており、農業普及振興室では今後も花きの高品質安定生産を支援していきます。



◀ひまわり



りんどう▶

担当：花き担当

冬期農業基礎講座を開催

当室では、新規就農者の農業経営の早期確立を図るため、毎年、12月から2月に、「冬期農業基礎講座」を開催しています。今年度は、農業簿記、果樹等の知識や栽培技術に関する講義、県名誉農業経営士である成田 毅なりただけし氏によるりんご剪定の実演など全6講座を開催したところ、延べ126名が参加しました。

1月22日に開催した「先輩農家との交流会」では、令和2年に就農した古川大主希氏こがわだいすけ（弘前市：りんご）と工藤達也氏くどうたつや（黒石市：ミニトマト）から、農地の確保など非農家出身者ならではの苦労話などを紹介していただき、その後、2グループに分かれて、「労働力はどのように確保するのか」など普段疑問に思っていることなどについて講師・参加者同士が情報交換を行いました。

担当：担い手担当



農業簿記講座



先輩農家との交流会

鳥インフルエンザに関するお願い

今シーズンも高病原性鳥インフルエンザの発生が断続的に発生しており、国内では51事例確認されております。

（令和7年2月1日現在）

○家さん飼養農家の皆さまへ

外来者の農場入場制限等再点検を行うとともに、農場消毒の徹底を引き続き行ってください。

○愛玩鳥を飼養されている皆さまへ

飼育舎内での飼育や防鳥ネットの設置により、野鳥との接触を防ぐ工夫を行い、感染予防に引き続き努めてください。



これからの雪害軽減対策について

雪の沈降に伴う枝折れ等の発生に十分注意し、以下の対策を実施して、被害の軽減に努めてください。

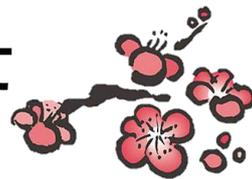
1. 晴天の日を選んで融雪促進剤を散布する。
2. 雪に埋もれた枝は掘り上げる。
3. 野ネズミによる被害を防ぐため、幹の周りの雪を踏み固める。
4. 2/3以上裂開している枝は剪去し、傷口にバッチレート等の塗布剤を塗る。
5. 樹上の冠雪は速やかに下ろす。

また、急激な融雪に伴い、作業道や園地・法面の崩壊の恐れがある場所での作業は、事前に点検・観察して事故に巻き込まれないよう十分注意してください。





令和6年度の重点的な取組内容について お知らせします



水田への高収益作物（にんにく）の作付推進

管内では、高齢化や労働力不足等により、にんにくの作付面積が減少傾向にあることから、現状や課題の把握に努め、にんにく産地の維持・拡大を図る必要があります。また、ほ場整備地区において、高収益が見込まれる「にんにく」を導入し、所得向上を図る必要があります。

にんにくの良品生産に向けて、中南地域にんにく優良種苗生産指導プロジェクトチーム会議を開催し、関係機関と情報共有を図りました。また、藤崎町に生育観測ほを3か所設置し、そのデータを活用して、追肥、収穫、植付けの講習会を農協と連携して行いました。

労働力不足等の現状を把握するため、管内2農協の部会員を対象として労働力の課題に関するアンケートを実施しました。回答数は3割程度とやや少ないものの、植付けと収穫の労働力が不足していること、植付け機と収穫機の導入希望があることが確認されました。今後も現地の課題解決に向けて、関係機関と連携して指導・支援を行っていきます。



中南にんにくPT会議



にんにく栽培講習会

担当：野菜担当

中南型りんご高密度植わい化栽培の導入推進

りんごの高密度植わい化栽培は、早期多収や軽労化が期待されますが、導入が増加する一方で、本県での栽培技術が未確立であることや、苗木の供給不足により導入が遅れることが課題となっています。

当農業普及振興室では、2年生フェザー苗木を使用する従来の栽培方法に加え、平川市密植栽培研究会の1年生ノンフェザー苗木を使用する栽培方法を「中南型」とし、モデル園地を活用し、栽培管理等の調査を行いました。栽培推進研究会では、先進地視察の報告等の情報共有も行いました。

また、中南型と従来型の生産者から高密度植わい化栽培の栽培技術やコツ等を聞き取りし、取りまとめた「中南地域のりんご高密度植わい化栽培事例集」を作成し、関係機関や生産者へ配付します。

次年度も、関係機関と連携し、高密度植わい化栽培の導入推進に向けて取り組んでいきます。



栽培推進研究会 ▲▼



担当：果樹担当